

## 「心の中に輝く光をみる」 ～私たちは愛されている～

ルカ2：8～20

今日はクリスマスを迎えるにあたって、イエス様がお生まれになったときのことを通して考えていきましょう。

ルカの福音書でイエス様がお生まれになったという知らせを一番に聞いたのは羊飼いでした。聖書の中で羊飼いだっただ人にアベル、ダビデがいますが、羊飼いは子供や低い身分の人がするもので、当時の羊飼いは人としてみなされないくらい低い地位の人がするものでした。

羊というのは人間とよく似ていて、自分で自分の身を守ることができなかつたり、すぐ迷ってしまつたりします。しかし、羊飼いの声を聞き分け、聞き従うことができるという能力もあります。ですからもし悪い者に聞き従ったら方向へ行ってしまうですが、良い牧者に従えば、私たちは良い方向へ向かうことができます。羊飼いは羊の特性を分かって飼わなければいけないのです。では良い羊飼い、牧者とはどういう人でしょう（ヨハネ10：10-12）今、あなたの先導者は誰で、その方に聞く耳を持っているでしょうか。そして、今、あなたは輝いていますか？もしあなたが良い牧者である神様から愛されているということを知っているなら、あなたは喜びに溢れ輝くことができます。

私たちが光輝くために、神様から愛されているということを確認するために、次のポイントをみていきましょう。

**1. 人の思いと神の計画** 当時の羊飼いは夜通し番をさせられる地位の低い者で、人としてみなされないほどの者でした。しかし、神様はそんな羊飼いのもとに救い主がお生まれになったという福音を一番に告げ知らせました。そして、イエス様自身も 高い地位について十字架にかからなくても神様の福音を伝えられたかもしれないにもかかわらず、人の底辺の部分、本来生まれる場所ではない家畜小屋でお生まれになりました。このことは、人間的に考えるととても不思議なことであり、考えられないことです。このことを通して神様の計画は私たちがどのように思っていようと、人の思いによらないものであることが分かります。これにより私たちは、自分が愛されているということを知ることができるのです。しかし私たちは自分の存在がそのまま愛されているということに気づくのに時間がかかります。以前の私は神様から何度も『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。（イザ43：4）』と言われていましたが、自分で勝手に結果が伴わなければ愛されないと思い込み、これだけやっても愛されないという劣等感に陥っていました。長いクリスチャン生活で自分を隠すこと、逃げるのが得意になっていました。だから「ありのままがいい」と言う神様の声を聞けずいました。しかし、今は違います。ありのままの姿で神様にまた人に向き合うことで、心が開放され自由を手に入れることができました。だから、羊飼いに現れたという人の思いをはるかに超える神様の計画から私たちは考えなければいけません。イエス様の誕生という福音をより多くの人に知らせるために、神様は地位のある者ではなく、この世で一番低い身分の者を初めに選ばれたのです。そしてルカ2：10にあるように彼らをとおして福音をすべての人に知らせようとされたのです。私たちがこうしてここにいること、神様がここにいる一人ひとりを集めたのも、決して偶然ではないのです。

**2. 羊飼いと周りの人々** この2章の場面は、ベツレヘムに行ってみようと言った羊飼いが無数にある家畜小屋を周りのたくさんの人たちを巻き込みながら、やっとの思いでイエス様を探し当てる姿を想像させます。そんな羊飼いが見聞きしたことを周りの人に告げ知らせたとき、周りの人々は驚き、不思議に思いました。でも同じ事を聞いたマリヤは一人、そのことを心に納め、思いを巡らしていました。私たちだったらどうでしょうか。私たちがこのことを聞いたとき、どのように受け止めるでしょうか。一緒に喜んで聞くことができるでしょうか、それとも救い主がこんなところで生まれるはずはないと、自分が思っていること以外のことが起こると受け入れられないでしょうか。これは私たちが自分へのアドバイスをされたときでも同じことがいえます。時に自分自身の思いによって素直に受けとれないことがあると思います。しかし、人からの言葉、特に自分にとって嫌な言葉こそ宝として受け取っていきましょう。以前、ND渡辺和子理事長は講演の中で「嫌なことも両手で受け取っていただきなさい。」とおっしゃっていました。嫌な言葉のなかに宝が隠されているのですから、自分の考えによらず、そのなかの真実をみことばと照らし合わせながら受け取っていきましょう。

**3. 日常で輝く** ルカ2：20に『見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので・・・』とあります。ここから神様の語られることは必ず成るといことが分かります。きっとこの福音を聞いた羊飼いはこの夜のことを決して忘れることなくいつも思い起こしながら日常生活を送ったのではないかと感じます。私たちはいつでも笑顔でいられます。ですから、心で感じた喜びを日常生活で受け取っていきましょう。神様は日々私たちを導き、守ってくださる方です。ですから私たちはみことばが取り次がれた日曜だけそのみことばに歩むのではなく、いつもそのみことばをしっかり握り、語り続けてくれるその声を聞き続けて歩いていきましょう。

神様はあなたを愛しています。私たちは愛されているのです。そしてそのことが分かり神様にありがとうと心の奥底から言えるようになれるとき、私たちは日々光輝くことができます。ですから、私たちを救うために来られたこと、ありのままを受け入れ愛してくださっていることを心から感じながら、日々主と共に歩みましょう。

（要約者：金光 瞳）